

# グローバル通信

2013.1 vol.27

Ryukoku University  
GLOCAL TSUSHIN

あけましておめでとうございます。

本来ならば年内の発行を目指しておりましたが、年を越してしまい、申し訳ございませんでした。

さて、新年を迎え、身に染みるような寒さがいちだんと深まり、外に出るのもおっくな時期ですが、いかがお過ごしでしょうか。

そんな時こそ、色んな活動に参加し、人と出会い、心も身体も温めましょう！

今号では、「海外フィールドワーク報告」「OECD 国際ワークショップ」「政策系大学・大学院研究交流会」など、冬の寒さを吹き飛ばす院生の活動が目白押しです。是非、ご一読ください。（編集部）

「天王山・淀川 歴史と文化 うるおいのあるまち おおやまぎき」を目指して	1
当事者活動と地域の支援ニーズをつなぐ	1
海外フィールドワーク 報告	2
インターンシップ生 頑張ってます！	2
政策系大学・大学院研究交流大会に出場しました！	2・3
修了生の今	3
修士論文中間報告会を終えて	3
的場先生からの激励の言葉	3
OECD 国際ワークショップに参加しました	4
氷川流域連携政策アカデミーに出場しました！	4
事務局インフォメーション	4



## 「天王山・淀川 歴史と文化 うるおいのあるまち おおやまぎき」を目指して

江下 傳明 (大山崎町長)

大山崎町は、天下分け目の「山崎の合戦」で有名な「天王山」と悠久の流れを湛える「淀川」に生まれ、数々の歴史と文化に彩られたまちであります。古くから水運の拠点とされた、桂川・宇治川・木津川の合流地点にあり、「交通の要衝」として現在も重要な役割を担っています。

さて、わが国においては、少子高齢化が進行しており、2005年からは人口減少社会に転じました。これにともない、社会経済情勢も大きく変化してきており、国と、地方自治体ともども、財政的制約はますます厳しいものがあり、今度ともそうした状況は続くものと考えられます。

そこで、大山崎町では分権型の自立した社会に向けて行財政改革に取り組み、町民との協働による自治の推進を目指しています。

これからの地方分権、地域主権の時代においては、町民の手による主体的な地域づくりがよりいっそう必要とされるため、まちづくりの指針となる第3次総合計画第3期基本計画を策定する際には、町民アンケート・町民懇談会・パブリックコメントなどを通じて、「町民参画のまちづくり」に向けての計画となるよう努めてきました。

このような中、龍谷大学大学院の「NPO・地方行政研究コース」では、住民と行政の協働政策を進めるための専門的な人材育成に取り組まれており、大きな期待を寄せております。大学が地域協働のパートナーとして、行政と連携を深め、地域社会の課題に目を向けられることは、双方にとって大きな効果があると考えています。

今後も関係各位の皆さまと、連携・協力し、魅力ある住みよいまちづくりをめざして、知恵と情熱を結集しながら日々努力していく所存です。

## 当事者活動と 地域の支援ニーズを つなぐ



市川 岳仁 (三重ダルク代表)

ご無沙汰しています。三重ダルクの市川です。

私は2009年度の修了生です。一年間、多様な背景を持つ方々と共に学び、議論し、そして論文を完成させました。彼らとは今も素晴らしい関係が続いており、機会あるごとに集まっては当時を振り返りつつ、談議に花を咲かせています。また、一部の方とはコースのご縁がきっかけで一緒にお仕事をする方もお見えになられます。

ご存知の方もお見えになれるかもしれませんが、「ダルク」は当事者活動として始まっています。今日では、DARC（ダルク）は現在全国に約50拠点、70ほどの施設があり、現在では、全国の刑務所内での薬物依存離脱指導教育に協力するなど、単に当事者のための自助活動に留まらず、地域社会における責任ある団体として認知されつつあります。

さらに、現在では多様な人がダルクに集まってくるため、その解決にも当然多様な職種の方が必要になっています。三重ダルクはスタッフだけでなく、支援者にも多様な職種の方がいます。今年度 NPO コースに在籍している市野瑛子さんは NPO 三重ダルクの社員であり、地域福祉の専門家でもあります。

そして、これからは当事者だけの活動を越え、地域のいろんな立場の方と協働しながら活動することが、三重ダルクの課題になってきます。例えば三重ダルクではお惣菜やお弁当の調理・販売の活動に取り組んでいます。回復活動の中で作ったお弁当が地域の単身高齢者に届くならば、地域で回復に取り組む当事者と地域で支援を求める多様な人々とが、つながっていく契機となるでしょう。市野さんには、当事者活動と地域の支援ニーズをつなぎ課題を解決する役割を期待しています。

NPO 地方行政コースには、多様な人々の課題やニーズを知る院生や研究者と、ニーズをつなぎ課題解決の道をさぐる方法論が集まっています。皆さんが学び合い議論し合う中で新しい方法論が生まれることを、修了生の一人としても、地域で活動する一人としても期待しています。

# 海外フィールドワーク 報告

## スペイン



9月4日から約一週間、スペイン北部にある巡礼路カミーノ・デ・サンティアゴと、その周辺都市の調査に行きました。ブルゴスやアストルガなど数ヶ所を巡り、宿場や巡礼事務所で運営者や巡礼者に話を伺い、巡礼事務所では、保有されている巡礼者データのことや地域との結びつきのことなどを伺いました。スペインは深刻な経済状況を脱せていませんが、市街地の雰囲気は予想に反し明るく、また周辺地域の市町村でもそれぞれに工夫している様子を知る機会となりました。近年増加を続けるカミーノ巡礼者。決して信仰心の強い人だけでなく、誰でも挑戦が可能で、それぞれの自由な思いと共に旅が許されています。地域もまた、そうした道や巡礼者と共に生きているようでした。

(林 遼平 政策学研究科)



## オランダ

夏休み期間を利用してオランダのロッテルダム、アムステルダム、ハーグで調査を行いました。ロッテルダムに到着した日は偶然にも年に一度の港のお祭りの日で、中心部を流れるマース川は大型の貨物船や軍艦、豪華客船、川遊びを楽しむ市民のボートで賑わっていました。



ロッテルダム滞在中は、埋立中のMaasvlakte2見学やインタビューを通じて臨海部の製造業と港湾産業の規模の大きさを肌で感じるとともに、工業用の埋立地造成とその海岸線を自転車道やビーチなど市民の憩いの場として整備する政策がセットで提案され、市民もそれに関心をもって見学に訪れていることに驚かされました。後半は市内の社会住宅や職業訓練所をまわり、成長産業の基盤づくりと中心部に住む移民や低所得者の住まいや職の確保の両立を目指す都市再生の最前線を見学しました。

(並木 洲太朗 政策学研究科)



## インターンシップ生 頑張ってます！

本年度も「行政インターンシップ」「NPOインターンシップ」を受講しているコース生が、行政やNPOでの現場において、元気いっぱいインターンシップに取り組んでいます。

次号では、そのインターンシップを経験したコース生を特集で取り上げる予定です。

ご期待ください！



(左「行政インターンシップ」深草支所にてPC業務に取り組むコース生)

(右「NPOインターンシップ」NPO法人よう北野まつりにて地域の祭り運営に取り組むコース生)



## 政策系大学・大学院 研究交流大会に 出場しました！

平成24年12月2日(日)にキャンパスプラザ京都で「政策系大学・大学院研究交流大会」が開催されました。本学からは、パネル発表に金澤徹さん(政策学研究科)、堀田正基さん(政策学研究科)が、口頭発表には学部生の石田ゼミ、土山ゼミ、白石ゼミ、深尾ゼミが参加され、日頃の研究成果を発表しました。本コースからは金澤さんが「大学コンソーシアム京都理事長賞」を受賞されました。本学以外にも関西の様々な大学が参加し、会場は学生で埋め尽くされ、終始賑やかな雰囲気となりました。また、学生同士がお互いの報告に質問や議論し合い、他大学の先生方からは自分たちの研究に対して講評やアドバイスを頂くなど、大学間の交流の場となったとともに学びを深めるという貴重な経験になったのではないのでしょうか。(編集部)

## 修了生の 今

### 流域・地域ぐるみで取り組む雨水流出抑制をめざして

下釜 卓（2011年度修了生）

私は、府南部地域の道路・河川などのインフラ整備・管理を担う京都府山城北土木事務所で仕事をしています。今日のインフラ整備は、従前からあるハード対策だけでは解決困難な課題が生じており、この課題を克服するため技術者の立場から日々奮闘しています。

特に近年は雨の降り方が様変わりし、改修が遅れた都市河川周辺の市街地で浸水被害を引き起こす局地的豪雨への対処が課題となっています。その対処手法を研究テーマに掲げ、社会人院生としてこのコースで学び、そ

の成果として、住民・事業者を巻き込んで雨水流出抑制の面的普及に取り組む「都市型治水」モデルを提案できたと考えています。今後は、コースで培った知見をもとに、現場での実践を目指していきます。



## 修士論文中間報告会を終えて



平成24年10月～11月にかけて政策学研究科では、修士論文中間報告会が実施されました。公開形式で、1月21日（月）の修士論文提出に向けて最後の調整となりました。緊張しながらも、これまでの研究成果を報告し、主査・副査の先生方から厳しくも温かい言葉が投げかけられました。報告を終えた院生からは「指導教員から普段言われていることと同

じであっても、他の教員から別の切り口で客観的に指摘されると、頭が整理されるだけでなく、今の自分に欠けている視点を持つことができる（千代苑子）」といった感想を頂きました。修士論文提出まで残りわずかとなりましたが、厳しい寒さを乗り切り、悔いが残らないよう走り切ってください！編集委員一同、応援しています。

（編集部）



## 激励の言葉

的場 信敬  
（政策学研究科 准教授）

★ もうわかっていると思いますが、ここまで来ると、もう気合です！  
★ 不安も多いと思いますが、これまで積み上げてきた努力を信じて、  
★ そして研究をはじめた当初の情熱をもう一度思い出して、ラストス  
★ パートをかけて下さい！あ、そうそう、データのバックアップは複  
★ 数取っておいた方が良いでしょう。怠ると泣きを見ます（経験者）。



パネル発表の様子

## OECD 国際ワークショップに参加しました

7月のJICA 集団研修に続き、今回、9月29日（土）OECD LORC 国際ワークショップを聴講するという大変貴重な機会をいただきました。

このワークショップは、諸外国政府、及び地域のステークホルダー（利害関係者）が人口減少、高齢化に如何なる取り組みをしているか、その経験を相互に学び、共有をすることを目指し開催されました。

今回のワークショップでは、京都府中北部地域を事例とし、京都府による『地域力』の育成や亀岡カーボンマイナスプロジェクトによる地域活性、大学と地域連携等の事例紹介を受けました。また、ワークショップのまとめでは、パネラーによる白熱した議論を観察することができました。



『バックカスティング』という言葉に反応するのであれば、日本のフォアキャストによって政策形成を行い行動しているのに対し、参加国の多くがバックキャストによって政策形成をしていました。将来何が起こるのか予測することに相違はありませんが、大きな違いは、過去のデータを積み重ね現状把握を行い、将来をどう予測するか、あるいは、将来どうなりたいたいのかを自分たちで描き、現状のまま行くとどうなってしまうのかを考え、対策を講じていくという違いがあります。

このことから、過去のデータを集め分析し現状を把握したうえで、将来像を描き、描いた将来像を実現するためには今何をすべきかを考えるというフォアキャストとバックキャストの考え方を組み合わせた政策立案をすれば、よりよい政策形成がなされていくのではないのでしょうか。

（田中 宏典 政策学研究科）

## 氷川流域連携政策アカデミーに出場しました!

11月3日～5日、熊本県八代郡氷川町にて開催された「氷川流域連携・全国大学生政策アカデミー」に佐野、滋野（ともに政策学研究科）、山内（法学部4回生）、横山（政策学部2回生）の4名が「チーム政策」として出場しました。

政策アカデミーでは、氷川流域に点在するまちづくり拠点施設に分かれ、ヒアリング等を通して調査を行い、氷川流域の活性化を図る政策をまとめ、提言し、その成果を競い合うものです。「チーム政策」では、築180年の歴史を誇る拠点施設「まちづくり酒屋」にて、流域の小中学生を対象にした地元PR戦略について提言を行いました。短期間で提言を作成するプロセスの難しさを感じると共に、とても学びの多い3日間となりました。



（滋野 正道 政策学研究科）

### 事務局インフォメーション

#### ●修士論文提出締切

2013年1月21日（月）

#### ●政策学研究科 海外フィールド研究・修士論文・課題研究報告会

日時：2013年3月9日（土）13：00～

場所：龍谷大学深草学舎22号館104教室

#### ●法学研究科 修士論文・課題研究発表会

日時：2月下旬～3月上旬

#### ●修了証書授与式

日時：2013年3月16日（土）10：30～

場所：龍谷大学深草学舎顕真館

### NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻27号 2013年1月

発行／龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース  
連絡先／政策学部教務課  
TEL：075-645-2285 FAX：075-645-2101

H P／[http://www.ryukoku.ac.jp/gs\\_npo/](http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/)  
編集集／滋野正道、竹本真梨  
編集補助／中西美也子  
監修／大矢野修、松浦さと子、土山希美枝、的場信敬  
印刷／株式会社 田中プリント